

小学生を対象とした「喫煙の防止」に関する授業の 教育の効果と家庭への波及効果

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-06-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 赤田, 信一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009434

小学生を対象とした「喫煙の防止」に関する授業の教育の効果と 家庭への波及効果

赤田信一

The effects of smoking prevention education to Elementary School students, and its ripple effects to their families

Shinichi AKADA

Summary

The aim of this survey was to clarify the effects of smoking prevention education to Elementary School students, and its ripple effects to their families. Participants were same group of 87 elementary students. Questionnaire surveys were conducted, self-reporting and anonymous, pretests(retrospective method) and posttests after the lecture about smoking prevention, and after one week. As a result, significant favorable changes were the proportion of participants who answered that “knowledge, understanding about the harm of the cigarette”, “consciousness, attitude to evade the cigarette” and “consciousness, attitude to talk about the harm of the cigarette within the family unit” increased significantly. The implementation rate of the conversation about the harm of a cigarette after one week from the lecture was 74.7%. A content analysis of free comments in the questionnaire about parent responses, identified 3 categories: “maintenance and recommendations of healthy life”, “gradual oriented to non smoking”, “continuation of smoking”.

キーワード : 喫煙の防止 教育の効果 家庭への波及効果 授業開発

I はじめに

本稿は小学生を対象とした「喫煙の防止」に関する授業の教育の効果とその家庭への波及効果について検証する授業研究である。

「喫煙の防止」に関する授業は、小学校体育科の第5学年及び第6学年の保健領域における『病気の予防』の単元で扱われることになっており、そこでは、喫煙が飲酒や薬物乱用などの行為と同じく『健康を損なう原因となること』を理解できるようにすること¹⁾が求められている。この「喫煙の防止」に関する教育の内容は、中学校の「健康な生活と疾病の予防」の単元、高等学校の「現代社会と健康」の単元でも継続的に実施されることになっており^{2・3)}、国の定める教育制度・教育内容において、未成年の時から「喫煙の危険性」を正しく理解し、喫煙しない生活を選択・維持す

るための思考力・判断力の育成が、他領域・他教科との関連性を保ちながら、系統的に実施されている。この学校教育の場における取り組みは、国民全体の喫煙率の低下、ひいては喫煙による健康被害の低減に貢献しうるものとして期待され、実践されつつけている。

実際の現在の日本の成人喫煙率を見てみると、厚生労働省の平成25年「国民健康・栄養調査」⁴⁾によれば、成人喫煙率は男女計で19.3%、また、JTの平成27年「全国たばこ喫煙者率調査」⁵⁾でも、成人喫煙率は男女計で19.9%となっており、年々その喫煙率が減少する傾向が見られる。因果関係の明示には至らないものの、現在展開されている学校教育の場における「喫煙の防止」に関する授業の実践が、日本国民の喫煙率の減少に何らかの形で寄与していることは間違いないであろう。

この喫煙率の減少の傾向をさらに推し進めるため、

医療・公衆衛生的立場としての日本政府の取り組みも活発である。日本政府は「がん対策推進基本計画」⁶⁾の中で、平成34年度までに国民の喫煙率をさらに12%にまで削減するという具体的な数値目標を設定し、その実現に向けた様々な施策を提示している。このような、「喫煙の防止」に向けた国を挙げての啓発活動・社会環境づくりは、今後ますます活発化するものと予想される。

当然のこと、医療・公衆衛生的立場からの取り組みと、学校教育の場における教育活動との連携は、必要不可欠なものである。

その意味において、小学校における「喫煙の防止」の教育は、児童がその人生において、はじめて系統的・計画的に「タバコの害」についての学びをスタートさせる貴重な機会であり、だからこそ、教育効果の高い授業の計画・実施が求められることは言うまでもない。最初の学びが、次の学びの深化・発展につながっていくこと、また医療・公衆衛生の分野につながっていくことは、生涯を通じた健康の保持増進のためにも非常に重要なことである。つながりや発展性のある学びの原体験と成り得る授業の構築を目指すためにも、小学校における「喫煙の防止」に関する授業の教育の効果を検証していく本稿での事例的な授業研究は、一定の研究的価値を有するものと考えられる。

なお、「喫煙の防止」に関する授業研究の推進の際に配慮が求められることのひとつとして、児童の保護者世代の喫煙率の高さから生じる問題があり、これは無視できないものである。現在の日本における男性の喫煙率は、実は30~39代で44.0%、40~49代で39.5%と高率になっており⁴⁾、この年代は児童の父親世代と重なっている。母親や他の家族の喫煙状況を踏まえると、「誰かは家で喫煙をしている」という状況にある児童、また家庭において受動喫煙の害を被っているという児童も少なくはないことが予想される。この状況は、「学校において喫煙が人間の健康を損なう原因となることを学びながらも、家庭においてはその喫煙をしながら生活している親族がいて、学校で学んだことが無視される形で、喫煙者以外の家族も有害な煙を吸わされながら(=受動喫煙)生活せざるを得ないことがあ

る。」というような、学校での学習内容と生活現実との間における一種の矛盾・相反性を生じさせている可能性があるとも言えよう。この状況は、「学校での学習内容は、生活場面では通用しない」、「保健の学習は、実は役に立たない」というような認識さえ児童の心の中に強めさせかねない。これは大きな問題であり、その状況の改善が求められよう。

学校での学習内容が、児童の生活の場である家庭においても生かされ、健康的な生活の実現の一助となることを期待するものである。少なくとも、学校での「喫煙の防止」の授業の内容が、児童を通して家庭の中でも話題にされていくことは、児童の学びを深めるためにも重要なことであると考えられる。

そこで本稿における授業研究では、授業で学んだ内容を、「喫煙の害について考えていける家庭での親子の会話の実現」につなげられるような授業展開を考案・実施し、その成果を「家庭への波及効果」として検証するとともに、その家庭において、児童からの会話・メッセージに対する「保護者の反応」についても、その内容を分析・検討していく。

II 研究方法

1) 介入研究の対象および時期

本稿の研究デザインは、保健学習における事例的な介入研究である。2015年2月にA市立A小学校6年生(90名)を対象として、「喫煙の防止」に関する授業を実施した。45分間の授業を、1学級(約30人)ごと、3学級に対して同日別々の時間帯にて実施した。学級担任である教諭の同伴のもと、筆者がゲストティーチャーとして中心的に授業を行った。

2) 授業の内容と展開

授業の内容は、小学校学習指導要領解説(体育編)の「目標及び内容」に示された以下6点(a~f)の項目を踏まえたものであり、加えて、ロールプレイングの取り組みの中で、「喫煙者に対して、喫煙の害について説明したり、喫煙行動を止めることを提案したりする言語活動」の学習場面を用意した。また、その言語活動の学習で得たものを、実際の生活の中で積極的に活用していくことの価値について解説した。全体的な

授業の展開は、90分間の授業時間で設計された先行研究の授業⁷⁾をもとに、45分間の授業の展開に新たに再構成したものを採用した。具体的には、別表1に示すとおりである。

- a. 呼吸や心臓の働きに対し急性的な悪影響を与える。
- b. 受動喫煙により周りの人にも健康被害を与える。
- c. 長期の喫煙が肺がん等の発症に深く関わる。
- d. 低年齢からの喫煙は健康上の悪影響が特に大きい。
- e. 未成年の喫煙は法律で禁止されている。
- f. 好奇心や周りの人からの誘いなどがきっかけで喫煙を開始する場合がある。

3) 調査内容

教育の効果ならびに家庭への波及効果を検証するために、(1) タバコの害・喫煙による健康被害についての知識・理解、(2) 喫煙回避のための意識・態度、(3) 喫煙による健康被害の防止に向けた家庭等でのコミュニケーション・会話についての意識・態度、(4) タバコの害・喫煙の防止についての児童からの会話に対する「保護者の反応」、を調査内容とした。

(1) タバコの害・喫煙による健康被害についての知識・理解

下記の9つの質問項目について、4件法(1.全く知らない 2.あまり知らない 3.少しは知っている 4.詳しく知っている)で回答を求めた。回答の点数化については、それぞれの選択肢に付けた番号を点数とした。

【質問項目】

- ① タバコの煙に含まれる有害物質の多さ
- ② タバコにより多くの「いのち」が奪われていること
- ③ 「肺」にダメージを与えて健康を害すること
- ④ 「血管 心臓」にダメージを与えて健康を害すること
- ⑤ 喫煙が「寿命」を短くする可能性があること
- ⑥ 「歯・口・肌」にダメージを与えて健康を害すること
- ⑦ 「周りにいる人の健康」を害すること(受動喫煙)
- ⑧ 「依存性」があり止められなくなることがあること
- ⑨ 子どもの時ほど、タバコの悪影響を受けやすいこと

(2) 喫煙回避のための意識・態度

質問項目を「人からタバコを勧められた時、その勧めに対して、はっきり断ったり、理由を込めて断ったりすることで、自分の健康やいのちを守ることができると思いますか」、「健康やいのちを守るためにも、自分が直接タバコを吸うことや、他人のタバコの煙を吸うこと(受動喫煙)は、やめるべきだ、さけるべきだ、と思いますか」の2項目として、それぞれ4件法(1.全くそう思わない 2.あまりそう思わない 3.少しはそう思う 4.とてもそう思う)で回答を求めた。回答の点数化については、それぞれの選択肢に付けた番号を点数とした。

(3) 喫煙による健康被害の防止に向けた家庭等でのコミュニケーション・会話についての意識・態度

質問項目を「家族や親せき、大切な知り合いの人が、もしタバコを吸っていたとしたら、その人に対して“タバコは体に悪いから、やめたほうがいいよ”と、優しく声をかけることについてどう思いますか」として、4件法(1.全く良い事だとは思わない 2.あまり良い事だとは思わない 3.少しは良い事だと思う 4.とても良い事だと思う)で回答を求めた。回答の点数化については、それぞれの選択肢に付けた番号を点数とした。

また、授業実施の一週間後において、今回の「喫煙の防止」に関する授業内容を、家庭・親子間のコミュニケーション・会話として実際に取り上げたかどうかについてアンケート調査した。

(4) 喫煙による健康被害の防止に向けた児童からの会話に対する「保護者の反応」

授業実施後の一週間において、喫煙による健康被害の防止に向けた児童からの会話に対する「保護者の反応」を、当該の児童に自由記述してもらい、それを質的に分析した。

4) 分析方法

回収された回答のうち、欠損値・未記入があるものを分析の対象からはずした。結果的に87人分(男

子 46 人、女子 41 人) の回答を分析の対象とした。

分析は IBM 社の統計ソフト SPSS を用いて統計処理を行った。授業介入による教育の効果の確認を行うため、授業終了後において、前述の調査内容についての無記名記述式のアンケート調査を行った。各質問項目については、「回顧法による授業前の自分の認識」と「授業後の自分の認識」について回答を求め、その変化については、対応のある順序尺度のデータとして、Wilcoxon の符号付順位検定を行った。なお、調査対象である男女において、点数化したものを t 検定したところ有意な差は認められなかったため、男女 87 名をまとめて集計した。

また、今回の「喫煙の防止」に関する授業内容を家庭・親子間でのコミュニケーション・会話として実際に取り上げたかどうかについて調査（会話の実施率）は、授業の一週間後に実施し、その男女差については Fisher の正確確率検定を行った。また、その際の「保護者の反応」については、Krippendorff の内容分析⁸⁾に準拠し分析した。ここでは文脈の背景を考慮しつつ、それぞれの回答の一文を一意味単位として捉えコード化した。そのコードをもとに、意味内容の類似性と差異性に従いながら集合体を形成し、サブカテゴリーを導いた。その後、抽出したサブカテゴリーをもとに、同様の手法を用いてカテゴリーを導いた。分析は、先ず筆者がカテゴリーを導き、それを今回の授業実践校の教員に検討してもらい手順を取り、見解に差異がある部分については、十分な議論によりそれを一致させた。なお、アンケート調査にあたっては、個人が特定されることはないこと、回答は拒否できることについて説明し、倫理的配慮と十分な教育的配慮のもとに実施した。

III 結果

1) 知識・理解に関する教育の効果

「タバコの害・喫煙による健康被害についての知識・理解」に関する授業前・授業後の比較では、以下 9 つの質問項目のすべてにおいて、肯定的な回答内容へと変化する有意な差が認められた (表 1)。

表 1 タバコの害・喫煙による健康被害についての知識

①タバコの煙に含まれる有害物質の多さ				
授業前		授業後		
n	%	n	%	
全く知らない	5	5.7	0	0.0
あまり知らない	31	35.6	0	0.0
少しは知っている	48	55.2	10	11.5
詳しく知っている	3	3.4	77	88.5

②タバコにより多くの「いのち」が奪われていること				
授業前		授業後		
n	%	n	%	
全く知らない	4	4.6	0	0.0
あまり知らない	26	29.9	0	0.0
少しは知っている	45	51.7	6	6.9
詳しく知っている	12	13.8	81	93.1

③「肺」にダメージを与えて健康を害すること				
授業前		授業後		
n	%	n	%	
全く知らない	0	0.0	0	0.0
あまり知らない	12	13.8	0	0.0
少しは知っている	50	57.5	6	6.9
詳しく知っている	25	28.7	81	93.1

④「血管・心臓」にダメージを与えて健康を害すること				
授業前		授業後		
n	%	n	%	
全く知らない	14	16.1	0	0.0
あまり知らない	26	29.9	0	0.0
少しは知っている	40	46.0	12	13.8
詳しく知っている	7	8.0	75	86.2

⑤喫煙が「寿命」を短くする可能性があること				
授業前		授業後		
n	%	n	%	
全く知らない	8	9.2	0	0.0
あまり知らない	33	37.9	0	0.0
少しは知っている	32	36.8	7	8.0
詳しく知っている	14	16.1	80	92.0

⑥「歯・口・肌」にダメージを与えて健康を害すること				
授業前		授業後		
n	%	n	%	
全く知らない	10	11.5	0	0.0
あまり知らない	38	43.7	0	0.0
少しは知っている	29	33.3	11	12.6
詳しく知っている	10	11.5	76	87.4

⑦「周りにいる人の健康」を害すること(受動喫煙の害)				
授業前		授業後		
n	%	n	%	
全く知らない	4	4.6	0	0.0
あまり知らない	21	24.1	0	0.0
少しは知っている	40	46.0	6	6.9
詳しく知っている	22	25.3	81	93.1

⑧「依存性」があり止められなくなることがあること				
授業前		授業後		
n	%	n	%	
全く知らない	6	6.9	0	0.0
あまり知らない	12	13.8	0	0.0
少しは知っている	40	46.0	4	4.6
詳しく知っている	29	33.3	83	95.4

⑨子どもの時ほど、タバコの悪影響を受けやすいこと				
授業前		授業後		
n	%	n	%	
全く知らない	13	14.9	0	0.0
あまり知らない	45	51.7	1	1.1
少しは知っている	23	26.4	11	12.6
詳しく知っている	6	6.9	75	86.2

Wilcoxon の符号付き順位検定 ***p<.001

質問項目別には「①タバコの煙に含まれる有害物質の多さ」については、「詳しく知っている」の回答が3.4%から88.5%となった。「②タバコにより多くのいのちが奪われていること」については、「詳しく知っている」の回答が13.8%から93.1%となった。「③肺にダメージを与えて健康を害すること」については、「詳しく知っている」の回答が28.7%から93.1%となった。「④血管・心臓にダメージを与えて健康を害すること」については、「詳しく知っている」の回答が8.0%から86.2%となった。「⑤喫煙が寿命を短くする可能性があること」については、「詳しく知っている」の回答が16.1%から92.0%となった。「⑥歯・口・肌にダメージを与えて健康を害すること」については、「詳しく知っている」の回答が11.5%から87.4%となった。「⑦周りにいる人の健康を害すること(受動喫煙の害)」については、「詳しく知っている」の回答が25.3%から93.1%となった。「⑧依存性があり止められなくなることがあること」については、「詳しく知っている」の回答が33.3%から95.4%となった。「⑨子どもの時ほど、タバコの悪影響を受けやすいこと」については、「詳しく知っている」の回答が6.9%から86.2%となった。

いずれも、知識・理解が深まったという意味として捉えられる変化であり、今回の「喫煙の防止」に関する授業の教育の効果の一端を示す結果となった。

2) 喫煙回避のための意識・態度に関する教育の効果

「喫煙回避のための意識・態度」に関する授業前・授業後の比較では、以下の2つの質問項目の両方とも肯定的な回答内容へと変化する有意な差が認められた(表2)。

質問項目別には「①人からタバコを勧められた時、その勧めに対して、はっきり断ったり、理由を込めて断ったりすることで、自分の健康やいのちを守ることができる」については、「とてもそう思う」の回答が39.1%から88.5%となった。「②健康やいのちを守るためにも、自分が直接タバコを吸うことや、他人のタバコの煙を吸うこと(受動喫煙)は、やめるべきだ、さけるべきだ」については、「とてもそう思う」の回答

表2 喫煙回避のための意識・態度

①人からタバコを勧められた時、その勧めに対して、はっきり断ったり、理由を込めて断ったりすることで、自分の健康やいのちを守ることができる。

	授業前		授業後		
	n	%	n	%	
全くそう思わない	2	2.3	0	0.0	
あまりそう思わない	10	11.5	1	1.1	***
少しはそう思う	41	47.1	9	10.3	
とてもそう思う	34	39.1	77	88.5	

②健康やいのちを守るためにも、自分が直接タバコを吸うことや、他人のタバコの煙を吸うこと(受動喫煙)は、やめるべきだ、さけるべきだ。

	授業前		授業後		
	n	%	n	%	
全くそう思わない	0	0.0	0	0.0	
あまりそう思わない	5	5.7	0	0.0	***
少しはそう思う	20	23.0	2	2.3	
とてもそう思う	62	71.3	85	97.7	

Wilcoxon の符号付き順位検定 ***p<.001

が71.3%から97.7%となった。

いずれも、喫煙回避のための意識・態度が強化されたという意味として捉えられる肯定的なものであり、今回の「喫煙の防止」に関する授業の教育の効果の一端を示す結果となった。

3) 喫煙による健康被害の防止に向けた「家庭等でのコミュニケーション・会話についての意識・態度」に関する教育の効果ならびに家庭への波及効果

喫煙による健康被害の防止に向けた「家庭等でのコミュニケーション・会話についての意識・態度」に関する授業前・授業後の比較では、「①家族や親せき、大切な知り合いの人が、もしタバコを吸っていたとしたら、その人に対して“タバコは体に悪いから、やめたほうがいいよ”と、優しく声をかけることについてどう思うか」の質問項目に対して、「とても良い事だと思う」の回答が57.5%から94.3%へと、肯定的な回答内容へ変化する有意な差が認められた(表3)。

これは、喫煙による健康被害の防止に向けた家庭等でのコミュニケーション・会話についての意識・態度が強化されたという意味として捉えられる変化であり、今回の「喫煙の防止」に関する授業の教育の効果の一端を示す結果となった。

表3 喫煙による健康被害の防止に向けた家庭等でのコミュニケーション・会話に関する意識・態度

①家族や親せき、大切な知り合いの人が、もしタバコを吸っていたとしたら、その人に対して「タバコは体に悪いから、やめたほうがいいよ」と、優しく声をかけることについて。

	授業前		授業後		
	n	%	n	%	
全く良い事だとは思わない	2	2.3	0	0.0	
あまり良い事だとは思わない	2	2.3	1	1.1	
まあ良い事だと思う	33	37.9	4	4.6	***
とても良い事だと思う	50	57.5	82	94.3	

Wilcoxon の符号付き順位検定 ***p<.001

また、授業実践の一週間後に実施した「家庭への波及効果」を検証するためのアンケート調査では、全体で74.7%の児童が「家庭・親子間において、タバコの害・喫煙の防止に関する会話があった。」と回答し(表4)、この会話の実施率の高さは、今回の授業の「家庭への波及効果」の一端を示す結果となった。

なお、このコミュニケーション・会話の実施率は、女子の方が男子よりも有意に高かった。

表4 喫煙による健康被害の防止に向けた家庭等でのコミュニケーション・会話の実施率

性別	対話あり		対話なし		
	n	%	n	%	
男子(n=46)	27	58.7	19	41.3	***
女子(n=41)	38	92.7	3	7.3	
全体(n=87)	65	74.7	22	25.3	

Fisher の正確確率検定 ***p<.001

4) 喫煙による健康被害の防止に向けた児童からの会話に対する「保護者の反応」

授業実践後の一週間において、保護者と「喫煙による健康被害の防止」に関する会話を行った児童(65人)のうち、保護者の具体的な反応について回答した62人分の自由記述によるデータを、それぞれ1つのコードとして捉えて内容分析を行った。結果として、【健康的な生活行動の維持と推奨】、【禁煙への緩やかな志向】、【喫煙の継続】の3つのカテゴリーが導出された(表5:【】はカテゴリー、「」はサブカテゴリー、<>は意味内容を表すコード)。

【健康的な生活行動の維持と推奨】のサブカテゴリーは、「生涯にわたる禁煙生活」「喫煙の害から回避」

であった。回答(=コード数と一致)は、62人中20人(32.3%)となり、その家庭での喫煙者の有無を確認したところ、この20人の家庭には喫煙者はおらず、その反応も、子どもからの会話の内容を踏まえ、喫煙していない現在の健康的な生活行動の維持・強化につなげていこうとする反応、また喫煙しない生活を推奨する反応となっていた。喫煙の害について授業で学んだ内容を、家庭でも深めていけるような親子の会話の実現を目指した今回の授業実践であったが、この「保護者の反応」の内容は、「学びの家庭への波及効果」としての成果の一端を示すものと言えよう。

【禁煙への緩やかな志向】のサブカテゴリーは、「少しずつでも止める」「健康への願い」であった。回答は、62人中17人(27.4%)となり、その家庭での喫煙者の有無を確認したところ、この17人の全ての家庭には喫煙者がいる状況であったが、そうした環境にありながらも、児童の会話に対するそれぞれの保護者の反応は、喫煙しない生活行動への転換・変更を目指す内容となっていた。前述の通り、喫煙の害について授業で学んだ内容を、家庭でも深めていけるような親子の会話の実現を目指した今回の授業実践であったが、この「保護者の反応」の内容も「学びの家庭への波及効果」としての成果の一端を示すものと言えよう。

【喫煙の継続】のサブカテゴリーは、「タバコは止めない」「喫煙は問題ない」であった。回答は、62人中25人(40.3%)となり、その家庭での喫煙者の有無を確認したところ、この25人の全ての家庭には喫煙者がいる状況であり、そうした環境において、児童の会話に対するそれぞれの保護者の反応は、喫煙が健康を害するものであろうと喫煙は止めないとする内容となっていた。前述の通り、今回の授業実践は、授業で学んだ内容を、「家庭においても喫煙の防止について考えていける親子の会話の実現」につなげることを目指したものであったが、この保護者の反応は、喫煙継続宣言とも言えるものであり、肯定的な意味における「学びの家庭への波及効果」を果たし得ていない結果を示すこととなった。

表5 児童からの会話に対する保護者の反応

カテゴリー	【健康的な生活行動の維持と推奨】
サブカテゴリー	「生涯にわたる禁煙生活」「喫煙の害から回避」
コード(例)	<p><大人になっても吸うことは無いように、気をつけようね、と言われた。></p> <p><タバコはお金もかかるし体にも悪いから絶対に吸わない方がいいねと答えてくれた。></p> <p><うなずきながら真剣に話を聞いてくれた。その後、やっぱりタバコはこわいね、と言っていた。></p> <p><受動喫煙は自分は吸わなくても、他人のせいで害を受けてしまうから気を付けた方がいいよ、と言っていた。></p>
(データ数)	(n=20 32.3%)
カテゴリー	【禁煙への緩やかな志向】
サブカテゴリー	「少しずつでも止める」「健康への願い」
コード(例)	<p><そんなに急に止められないけど、少しずつ量を減らすよ、と言った。></p> <p><わかったよ、これからはあまり吸わないようにするね、と言ってくれた。></p> <p><タバコについて、考えてみる、と言ってくれた。></p> <p><すぐには止められないけど、いつか止めて、受動喫煙とか無く、家族が健康でいられる家庭にする、と言ってくれた。></p>
(データ数)	(n=17 27.4%)
カテゴリー	【喫煙の継続】
サブカテゴリー	「タバコは止めない」「喫煙は問題ない」
コード(例)	<p><高齢の人でも吸っているから大丈夫、やめられない、と言っていた。></p> <p><タバコは止めたくない、と言われた。></p> <p><もうこれだけ吸っているから、無駄だよ、と言われた。></p> <p><止めたほうがいいと言ったら何も言わないで吸い続けていた。></p>
(データ数)	(n=25 40.3%)

IV 考察

本稿は、小学6年生を対象とした「喫煙の防止」に関する授業の教育の効果とその家庭への波及効果について検証するための事例的な授業研究であった。

様々な学習内容・単元が用意されている保健学習のカリキュラムの中で、「喫煙の防止」の授業に割り当てられる時間は、現実的には1時間(45分)程度であり、その限られた授業時間のなかで、いかに効果の高い授業を実践していくかが保健学習の授業研究の

大きなテーマとなっているが、本稿はそのような授業の姿・あり方を探究する試みでもあった。

結果のとおり、「タバコの害・喫煙による健康被害についての知識・理解」に関する授業前・授業後の比較調査においては、今回の授業によってその知識・理解が深まっていくという肯定的な変化が認められた。これは、小グループでの学習活動や海外や国内の最新の視聴覚教材の本授業での活用が、このような教育の効果を導いたものと考えられる。

また、「喫煙回避のための意識・態度」、ならびに「喫煙による健康被害の防止に向けた家庭等でのコミュニケーション・会話についての意識・態度」に関する授業前・授業後の比較調査においても、今回の授業によってその意識・態度が強化されていくという肯定的な変化が認められた。これは、本授業の特徴でもある「何者にも自分の健康を害させない、自らの健康は自らで守り抜くという健康意識・人権意識」とともに、「自分の健康だけでなく喫煙者や他人の健康をも気遣うことの価値」が強く意識された授業の設定において、思考力・判断力の発揮が求められたロールプレイングの活動が、このような教育の効果を導いたものと考えられる。

加えて、授業後の一週間における「家庭・親子間における喫煙の防止に関する会話の実施率」の調査では、「会話した者」が74.7%の高率となり、学校での学びが家庭にも広がっていったことが明らかになった。今回の授業で扱った前述の教材の活用やロールプレイングでの取り組みが、このような「家庭への波及効果」を導いたものと考えられる。

この「学校での学びが家庭にも広がり、家庭での会話を通してさらに喫煙の防止に関する学びが深まっていく」ことを意味する「家庭への波及効果」であるが、その一部である「家庭での児童からのコミュニケーション・会話」に対する「保護者の反応」については、【健康的な生活行動の維持と推奨】を意味する反応と、【禁煙への緩やかな志向】を意味する反応が認められた。いずれも授業内容に照らして肯定的な反応であり、確認された「保護者の反応」のうち59.7%がこれらの反応が占めていたことは、今回の授業の成

果を示すものであると考えられる。先行研究では家庭での喫煙の防止に関する会話が、家族構成員の実際の喫煙率を減少させることも指摘されており⁹⁾、児童からのコミュニケーション・会話に対するこのような保護者の反応が行われることは、家庭での喫煙対策（受動喫煙対策）にとっても、有益なものに成り得るものと考ええる。

しかしながらその一方で、会話をを行った児童のうち40.3%が、【喫煙の継続】を意味する反応を保護者から示されていた。ここには、学校での学習内容と生活現実との間における一種の矛盾・相反性が生じている訳であるが、この状況をどう受け止め、このような生活環境下にある児童に対し、どのような教育支援を行うべきかについての検討が、本稿が残した大きな課題である。その問題解決のためのさらなる授業研究を今後も進めていきたいと考える。

ただこの課題を自覚しつつも、喫煙者である自分の保護者の健康を気遣い、「喫煙の有害性」や「喫煙による健康被害の防止」に関するコミュニケーション・会話をを行った児童の行動力には、敬意を表したい。

保護者の喫煙に対する態度・行動は、その子どもの態度・行動に大きな影響を与える¹⁰⁻¹¹⁾ことから、学校教育ならびに社会教育、医療・公衆衛生の各立場が、その専門性を発揮し、また連携を深めながら、喫煙する保護者に対しての教育・啓発活動、医療的支援、社会環境の整備をさらに推進していくことも必要であると考ええる。

謝辞

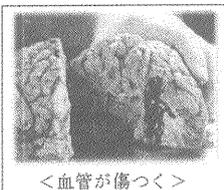
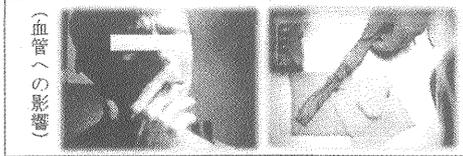
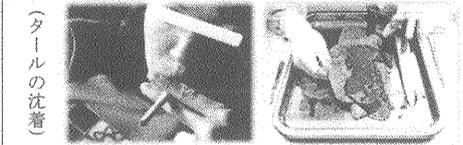
本稿に関する授業研究・授業実践に際して様々なご指導ご助言をいただいたA市公立A小学校ならびにA市教育委員会学校教育課の先生方各位に対しまして心より感謝申し上げます。また、本稿の授業研究推進のためにデータ整理等の様々なサポートをしていただいた静岡大学教育学部赤田研究室のゼミ生の方々に対しても心からのお礼を申し上げます。

<引用・参考文献>

- 1) 小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 2008
- 2) 中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 2008
- 3) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 文部科学省 2009
- 4) 厚生労働省：平成25年「国民健康・栄養調査」
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000067890.html> (access ; 2016.1)
- 5) JT：平成27年「全国たばこ喫煙者率調査」
http://www.jti.co.jp/investors/press_releases/2015/0730_01.html (access ; 2016.1)
- 6) 厚生労働省：がん対策推進基本計画
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/gan_keikaku.html (access ; 2016.1)
- 7) 赤田信一：小学校体育科「喫煙の防止」についての授業開発の試み、静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要、19：45-54、2011
- 8) K.Krippendorff 著 三浦俊治 椎野信雄 橋元良明訳 メッセージ分析の技法「内容分析」への招待 勁草書房 1989
- 9) 奥田紀久子 他：高校生を対象とした喫煙防止教育の効果及び家族への波及効果、四国医誌、68：3-4、131-138、2012
- 10) Leatherdale,S.T.,et al：The influence of friends, family, and older peers on smoking among elementary school students. Preventive Medicine 42:218-222,2006
- 11) Hughes,S.K.,et al：Smoking behaviors, access to cigarettes and relationships with alcohol in 15-and 16-year-old school children. Eur. J. Public Health, 21:8-14、2010
- ・Australia's National Tobacco Campaign
<http://www.quitnow.gov.au/> (access ; 2016.1)
- ・政府インターネットTV たばこの煙の恐ろしさ
<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg8643.html> (access ; 2016.1)
- ・BBC Women unaware of smoking risks
<http://news.bbc.co.uk/2/hi/health/1566191.stm> (access ; 2016.1)

別表1 「喫煙の防止」の授業展開（概略）

- 授業名 ; 喫煙の防止：タバコの害から体を守ろう 「単元：病気の予防」（第6学年）
- 目標 ; 喫煙が健康を損なう原因となることについて、友達の意見を聞いたり、自分の意見を言ったりしながら進んで学習に取り組もうとする。（関心・意欲・態度）
 - ; 喫煙が健康を損なう原因となることについて、その健康被害を予測したり、健康被害を防ぐ方法を提案したりすることが出来る。（思考・判断）
 - ; 喫煙が健康を損なう原因となることについて、人体にもたらされる症状やその深刻さを理解することが出来る。（知識・理解）
- 授業展開（45分）

●学習内容 「教師の主な働き掛け」※実際の授業では児童との対話・やり取りが含まれる。 板書・カード	<留意点>（評価）
<p>●導入 喫煙の害に関する既知の内容の確認と新たな知識・理解を深める場面</p> <p>「今日は、私達のいのち・健康を大切にしていこう！ そのために、タバコの害から体を守ろう！ という授業をします。」</p> <p>いのちを大切にしよう タバコの害から体を守ろう</p> <p>「さて、このタバコですが、タバコとは、次のようなものだということが、もう分かっています。」</p> <p>タバコは、人の健康を害する タバコは、人を病気にさせる タバコは、人の命を奪う</p> <p>「それは何故なのか。その理由は、このタバコの煙の中に有害な物質が含まれているからですね。」</p> <p>タール ニコチン 一酸化炭素</p> <p>「でも不思議です。よく知られているこのたった3つだけ有害物質が、人の病気にさせたり、命を奪ったりするのでしょうか。」「実際には、現在分かっているだけで、約200種類の有害物質、その中には約70種類の発がん性物質が含まれているとされています。」</p> <p>約200種類の有害物質 発がん性物質も多く含まれる</p> <p>「そんなタバコですが、具体的にどのような悪い症状・病気を人間にもたらすのかを、カードゲームを通して、確認したいと思います。ここに、タバコの害について記載された10種類20枚のカードがあります。神経衰弱のルールでこれを裏返ししながら、タバコの害について確認をしていきましょう。実施する小グループのなかで、最も多くのカードを取った人が勝ちですが、これは単なるカードゲームではありませんので、記載されている内容について、グループ全員でしっかりと確認していきましょう。分からないことや疑問に思う事などは、先生に質問してください。」</p> <p>【カードの内容；一部】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <血管が傷つく></div> <div style="text-align: center;"> <肺が汚れる></div> <div style="text-align: center;"> <せきがでる></div> <div style="text-align: center;"> <周りの人にも害></div> </div> <p style="text-align: right;">（他6種類）</p> <p>「次に、タバコの害について映像教材を用いて詳しく学んでいきたいと思えます。タバコの害について新たな発見があれば、それを発表してください。また、分からないことや疑問に思う事などがあれば、先生に質問してください。」</p> <p>【映像教材の内容；一部】</p> <div style="display: grid; grid-template-columns: repeat(2, 1fr); gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -20px; top: 50%; transform: translateY(-50%); font-size: small;">（肺への影響）</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -20px; top: 50%; transform: translateY(-50%); font-size: small;">（血管への影響）</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -20px; top: 50%; transform: translateY(-50%); font-size: small;">（タールの沈着）</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -20px; top: 50%; transform: translateY(-50%); font-size: small;">（皮膚への影響）</p>  </div> </div>	<p><喫煙の害についての学習の導入場面でもあり、対話形式のやり取りの中で児童が興味・関心を持つことが出来るよう配慮する。></p> <p><喫煙の害に関する既知の内容の確認と同時に、これまで知らなかった喫煙の害の存在についての気付きを通して、更なる学習への関心・意欲を高めさせていく。></p> <p>※カードの図絵は、オーストラリアのナショナルタバコキャンペーン(Quit)とカナダ政府指定のタバコパッケージの内容を引用し作成したものである。</p> <p>（関心・意欲・態度） （知識・理解）</p> <p><児童に課題意識を持たせながら映像教材を視聴させる。なお映像は上記の資料ならびにイギリスBBC制作のもの、また日本のテレビCMで放映されている禁煙支援に取り組んでいる製薬会社の啓発映像を活用した。></p> <p>（知識・理解）</p>

「このように多くの健康被害をもたらすタバコですが、タバコで健康を害さないためにも大切なことは、まず喫煙しないことです。また、受動喫煙の被害にあわないようにすることも大切です。」

「同時にタバコを吸っている人は喫煙を止めることです。タバコには依存性があり、禁煙は難しいところもありますが、現在はタバコを止めるための方法があって、社会全体で禁煙を支援しています。」

喫煙しない **喫煙を止める** **禁煙の方法として禁煙外来に通う** **禁煙のための薬を利用する**
社会全体で禁煙を支援

●喫煙の害についての知識・理解をもとに思考力・判断力を深める場面

「ある事例について考えていきたいと思います。」

資料のような形でお兄さん（先輩）から喫煙の勧めを受けたとします。そのとき、Aくんほどの様な知識や態度で対応し、喫煙しないという行動を選択すればいいのでしょうか。これまで、学んだことをもとにして、その時の状況に応じた対処法を、あなたがAくんになったつもりで記入してください。」

「また、最後の言葉かけのところでは、喫煙をしている人に対して、タバコを止めたほうが良い理由や、タバコを止めるための方法がある事について、優しく説明してあげましょう。」

「後ほど、実際にロールプレイングの内容を紹介してもらいます。友達の対処法についてその長所を指摘し合ひましょう。」

※実際のロールプレイングにおける喫煙の勧め役は、教師が行う。また、各人の発表後、その長所について児童同士で指摘し合えるようにコーディネートする。

※ロールプレイングにおける児童の回答・作品の具体例（原文）は以下の通りである。

【例1】「(1) ぼくは吸いません。タバコ1本には、200種類以上の有害物質が入っているから吸いません。」「(2) その1本ぐらい大丈夫がダメです。止められなくなったら困るから。」「(3) 病気になって死んでしまった人がいると聞きました。絶対吸いません。」「(4) 年齢なんか関係ありません。ぼくは吸いません。自分で自分の健康を守りたいから、帰ります。お兄さんも止めた方がいいと思います。」(女)

【例2】「(1) いらないです。1本でも14分寿命が縮まっちゃうから。」「(2) タバコは依存症があって、止められなくなるから、いらないです。」「(3) タバコには200種類ぐらいの有害物質が入っているし、病気になりやすくなるので、吸いません。」「(4) お兄さんのほうが年齢でも、勧めて良いものと悪いものがあります。ぼくはタバコを吸わないです。お兄さんもタバコを吸うのを止めたらどうですか。」(女)

【例3】「(1) 別に大丈夫。寿命が縮むっていうし。」「(2) ニコチン中毒になるから、一度やったらどんどん吸うことになるから。」「(3) 200種類ぐらいの有害物質があるから。それがたたって病気になる人がほとんどだから。」「(4) そういう関係ないじゃないですか。お兄さんもすぐ止めたほうが良いですよ。年下年上に関係があるんじゃないかって、命に関係があるんですから。」(男)

●まとめ

「喫煙の防止、タバコの害から体を守ろうというテーマで学習を進めてきました。今日学びを深めたタバコの害から自分の健康を守っていくための知識・態度を、これからも大切にしていけると良いと思います。同時に、タバコによる健康被害を受けている可能性のある人の健康を気遣えることも素晴らしいことだと思います。喫煙問題について、お家の人と語り合いの時間を持つてみるのも、良いことだと思います。自分、家族のいのち・健康を大切にする生活行動について、親しい人同士、真剣に真面目に会話することは、とても大切なことですよ。」

「最後に、今日学んだこと、感じたことについて発表してください。」

～発表内容の交流後に授業終了～

＜喫煙しないことの価値、また社会全体で禁煙を支援している実態について確認する。＞

(知識・理解)

(思考・判断)

＜これまでに学んだ知識をもとにして対処法を考えさせていく。＞

＜誠意を持って対応しつつも、人権侵害にあたる相手の主張に対しては断固拒否する姿勢で構わないことを理解させる。同時に、相手の健康を気遣い、禁煙を勧めたり、その方法を教えたりすることの価値についても理解させる。＞

(思考・判断)

＜学んだ内容を家庭での健康行動に関するコミュニケーション・会話の場につなげていくことの価値について気付かせる。＞

(思考・判断)